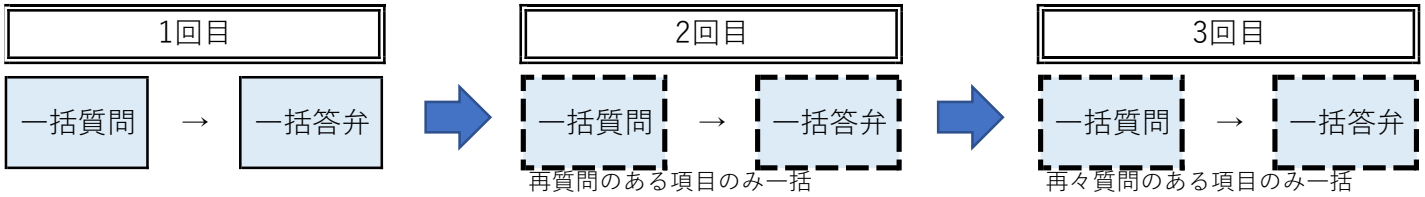
資料４

代表質問における道内他都市の事例

パターン①

質問・答弁ともすべて一括



※**答弁は市長と教育長のみの市が大半のため、概ね通告の順番通り**となっている場合が多い。

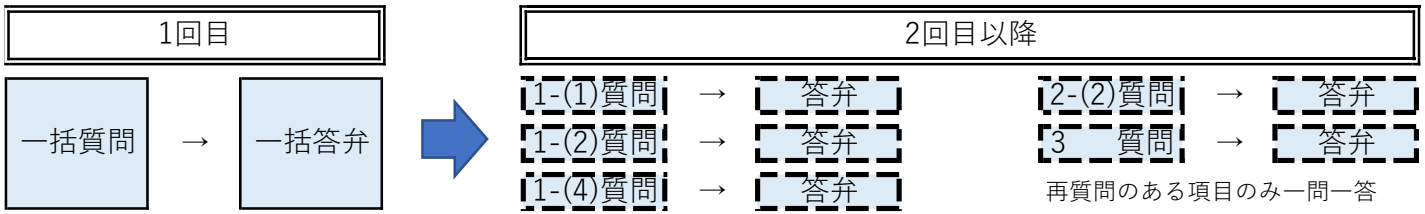
※再質問なしの市もあり

【主な実施市】

苫小牧・札幌・旭川・釧路・帯広・室蘭・北見・岩見沢・網走・滝川

パターン②

１回目は一括、2回目以降は一問一答



※**1回目の答弁は市長と教育長のみの市が大半のため、概ね通告の順番通り**となっている場合が多い。

※2回目以降は、部長が答弁するケースもある。2回目以降は一問一答のため順番通り。

【主な実施市】

函館・稚内・根室・北広島・千歳・名寄

質問時間に関する調査

- 札幌（答弁含まない）　15～60分※
- 旭川（答弁含まない）　40分
- 釧路（答弁含まない）　70～90分※
- 帯広（答弁含む）50分+(人数×5分)
- 室蘭（答弁含まない）　60分
- 北見（答弁含まない）　20～120分※
- 岩見沢（答弁含まない）　60分
- 網走　制限なし
- 滝川（答弁含まない）　45分

※は会派人数により時間が異なる

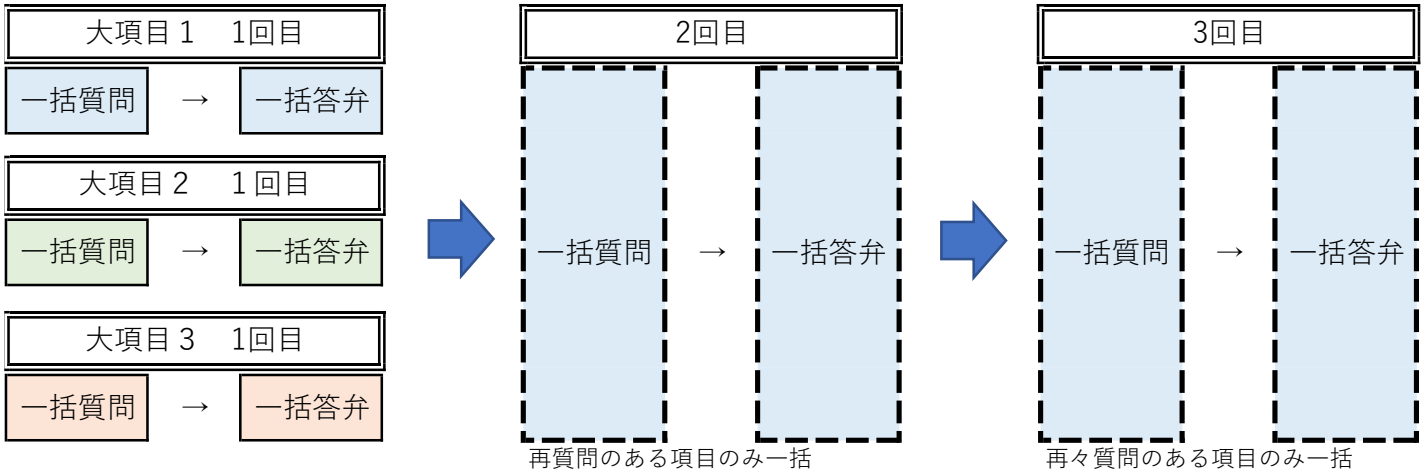
- 函館(答弁含む)　90～ 120分※
- 稚内（答弁含まない）　40分
- 根室（答弁含まない）　45分
- 北広島（答弁含まない）　60分
- 千歳（2回目以降答弁含む）60～120分※
- 名寄（答弁含む）　120分

課題等

- １つの質問に固執してしまい、質問時間が足りなくなる。
- 答弁時間を含めたため、議員の質問に多くの時間が使われ、答弁時間が十分に残らないことがある。
- 再質問を想定した質問になりがち。

パターン③

1回目のみ大項目ごとに質問・答弁を終わらせる。**2回目以降は**全体通して**一括**



・小樽(答弁時間含まない)
40分

課題等

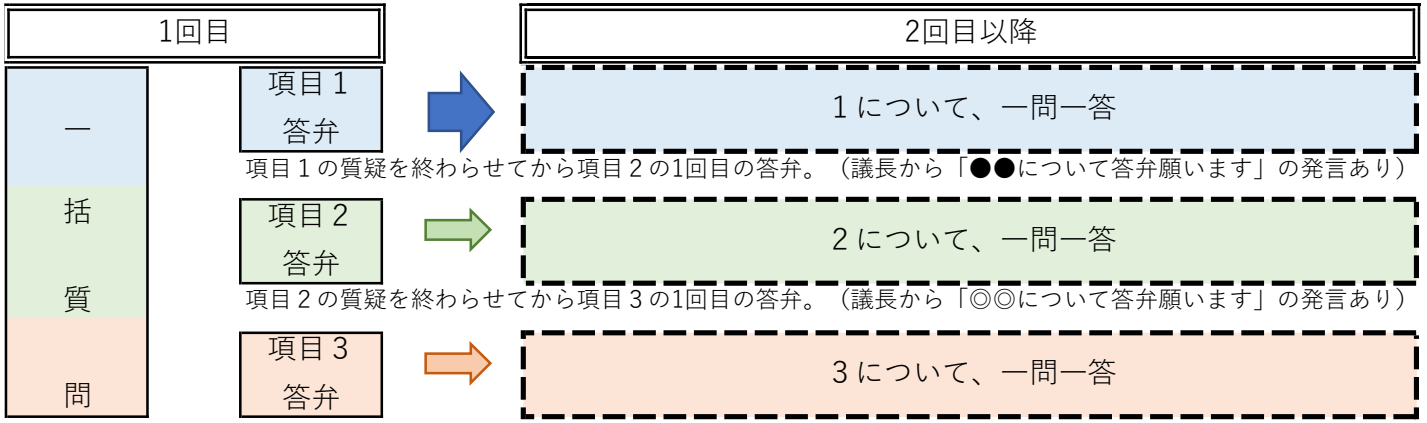
・項目ごとに都度登壇しているため、時間がかかる。
時間短縮のため、理事者と議員席の中間点に、質問席を設置した。

※1回目の答弁は市長と教育長。大項目ごとに答弁するので登壇が複数回になる。
※2回目以降は部長も答弁しているため順不同になる。

【実施市】　小樽

パターン④

１回目の質問は一括、1回目の答弁は項目ごとで、そのまま**再質疑を一問一答で行う。**



・三笠（答弁含む）　60分

課題等

・1回目の質問時は登壇し、2回目以降はずっと質問席にいるため、移動に関しての課題はない。
・まれに、一つの質問を掘り下げることにより時間が足りなくなる例はあるものの、基本的にはそれぞれ議員が上手に時間配分を調整している。

※答弁者は部長・次長で市長は答弁していない。

【実施市】　三笠